京都府立京都すばる高校

令和元年度研究指定（令和３年度最終年）
地域との協働による高等学校教育改革推進事業
（プロフェッショナル型）

研究開発名

「住んでよし、訪れてよし」の持続可能都市
京都を支える人材育成に関する研究
～みんなごと化プロジェクト～

地域協働推進室
商業科 北川 博士

京都すばる高等学校
KYOTO SUBARU HIGH SCHOOL

京都府立京都すばる高等学校

商業科（新学科設置）
起業創造科
起業家精神で地域社会をデザインする

企画科
企画力で京都と世界をつなぐ

情報科
情報科学科
ICTで社会の発展を加速する

～みんなごと化プロジェクト～

４つの研究開発目標（令和元年度プロジェクト開始）

1 コンソーシアム体制の確立

2 地域課題解決型授業の実施

3 地域公共政策士の養成

4 学校ボランティアクラブの設置

研究開発の成果

1 コンソーシアム体制の確立

⇒コンソーシアム体制の充実

① 運営指導委員会の設置
② コンソーシアム会議の設置
③ カリキュラム開発等専門家の配置
④ 地域協働学習実施支援員の配置
⑤ 地域協働推進室の設置

外部の応援団と校内担当の組織化

2 地域課題解決型授業の実施

⇒地域課題解決型授業の充実

① 3年間の系統的授業の確立
② 学校設定科目（2・3年次）の活用
③ 課題研究（18ゼミ）の実施
④ 生徒の成長（変容）

＊じぶんごと化　81.5%（生徒アンケートより）
「地域諸課題に当事者意識を持った生徒」

⑤ 教員の意識の変化

＊教員個人のつながりによる連携⇒コンソーシアムの活用

4 学校ボランティアクラブの設置

⇒部活動化の実現　① 生徒実行部の設置

研究開発の成果～地域課題解決型授業の充実～

（地域商店街“商いリサーチⅠ”）

（向島とアフリカをつなぐプロジェクト）

（生徒が作成した英語・中国語・日本語の企画書）

（地域企業“商いリサーチⅡ”）

（伏見区役所深草支所外国人再誘致提案会）

（地元野菜を使った商品開発）

研究開発の成果～コンソーシアム体制の充実～

カリキュラム開発等専門家の配置

特定非営利法人グローカル人材開発センター代表理事 行元 沙弥 様

「外部の専門家」視点の必要性

事例（２年生起業創造科「企業内起業」プロジェクト）

連携の企画・実施支援・授業評価等の支援体制

研究開発の成果～コンソーシアム体制の充実～

地域協働学習実施支援員の配置（週２回）

「コーディネート」専門家の必要性

事例（３年生課題研究「各種プロジェクト」）

テーマに最適な人、企業、地域との連携体制

地域協働学習実施支援員の役割について

伏見いきいき市民活動センター長 三木 俊和 様より報告

① まちづくりやビジネス的な取り組みをしているねらいに合致した方をつなぐ

② 教員の授業設計上のねらいを理解し、地域との交わり方を考える

③ 地域の方々と出会い、丁稚奉公と地域連携の違いを地域の方と整理する

研究開発の成果～コンソーシアム体制の充実～

地域協働推進室の設置　地域協働推進担当教員

「校内のつなぎ役」担当教員の重要性

事例（連絡会議による情報共有・授業担当者のサポート）

コンソーシアム体制による応援

研究開発の課題

（成果）コンソーシアム体制・地域課題解決型授業の充実
⇒生徒の成長（変容）・教員の意識の変化

（研究指定前）教員個人のつながりによる連携授業設計

コンソーシアム体制の応援による連携授業設計

**（課題）事業終了後の地域とつながり
続ける持続可能な仕組み設計**

まとめ（地域との協働による高等学校教育改革推進事業 ）

社会が大きく変化するこれからの時代に求められる力

- 主体的に学び考える力
- 多様な人とつながる力
- 新たな価値を生み出す力

地域とつながる学びの仕組みの必要性と継続性

⇒外部の専門家・専門機関によるサポートが大切

教室での学び（知識・技術）

地域社会とのつながる学び